

## 夏季少年のバス 自然体験は子どもの宝物

町青少年育成町民会議主催の「夏季少年のバス」が7月18日から2泊3日の日程で行われました。小学4年生から中学1年生までの29人が「阿蘇青少年交流の家」で集団生活をしながら、水基めぐりやハイキングを行い大自然を満喫。子どもたちは仲間と共に大自然「ならでは」の体験や発見をしながら、ふるさとの生活では味わえない貴重な3日間を過ごしました。



↑3日目に標高935メートルの「大観峰」から阿蘇の大自然を一望する子どもたち。

↓ほうじょう温泉「ふじ湯の里」で少し緊張しながらも、笑顔で接客をする生徒。



## 中学生職場体験学習 初めての“仕事”にチャレンジ

方城・赤池中学校の生徒が夏休みに職場体験学習を行いました。方城中学校では8月5日と6日に51人が、町内15か所の保育所や施設、商店などに毎朝“通勤”し、接客や事務などの“仕事”を体験。生徒たちは働くことの楽しさや喜びだけでなく、厳しさや大変さを身をもって経験することで、自分を見つめ直し将来について真剣に考える良い機会となりました。

↓子どもだけでなく大人も楽しめる運転体験。車内は家族の笑顔でいっぱいでした。



## 読売旅行ツアーで平成筑豊鉄道の運転体験 へいちく電車で夏休みの思い出づくり

8月22日、読売旅行のツアーで東京から来た30人の家族連れなどが、平成筑豊鉄道・金田駅で列車の運転体験を行いました。このツアーはハウステンボス・USJの西日本2大テーマパーク散策と、列車の運転体験ができる夏休みの特別企画。参加者は関東でも珍しい本物の列車の運転体験を家族全員で楽しみながら、福智町で夏の思い出の1ページを刻みました。

## 第12回目日韓交流事業 上野焼の“縁”で深める絆

上野焼の開祖・尊楮ゆかりの韓国泗川市から22人の初等学生が8月17日から3日間来日し、町内の小学校5・6年生14人と交流しました。上野焼創業400年をきっかけに始まった町の日韓交流事業で今年12日目。町ふれあい塾で寝食を共にした子どもたちは、一緒に観光をしたり歴史や文化を学んだりしながら打ち解け合い、海を越えて友情を育みました。



↑最終日に渡瀬を訪れ、国指定伝統工芸品「上野焼」の作陶を見学する子どもたち。

↓8月18日に辻村教育長を表敬訪問し、9年間練習に励んだ赤池町民グラウンドの土を踏む水永くん。



## 水永悠斗くん甲子園出場 福智町出身のエース 大健闘!

創成館高校(長崎県)夏の甲子園初出場に貢献した左投げエース水永悠斗くん。福智出身で9年間、赤池ベアーズに所属していました。184cmの長身を生かし、長い腕をしならせるピッチングで県予選を突破して、高校球児憧れの大舞台へ。チームは二回戦で惜しくも敗退したものの、悲願の甲子園初勝利をつかみました。「マウンドで緊張はなく、地元の友人や恩師たちの応援が力になり、実力を発揮できました」と話す水永くん。「今後は大学へ進学してプロを目指したい」と、福智の球児は次の舞台をしっかりと見据えていました。

## 伊方小学校平和学習 子どもたちへ証言をつなぐ

広島に原爆が投下されて今年で70年となった8月6日、町内の各小中学校で平和学習が行われました。伊方小では6年生53人を対象に、「兵士・庶民の戦争資料館(小竹町)副館長の武富慈海さんが講演。子どもたちは軍服や陶器製の手投げ弾、鉄帽などの遺品を手に取りながら語り部の話に聞き入り、遺品が語りかける戦争の辛苦や平和への尊さを学びました。



↑遺品の“重み”を感じて欲しいと、実物を身に付けさせ戦争の実相を語る武富さん。

↓ひめゆり平和祈念資料館で、生徒の証言集から悲惨な沖縄戦の実態を見る児童。



## 沖縄平和学習「少年の翼」 沖縄戦学び平和の尊さを実感

8月1日から3日間、沖縄平和学習「少年の翼」が行われ、小学5・6年生24人が沖縄県中城村にホームステイをしました。あたたかい歓迎を受けた子どもたちは、世界遺産「中城城跡」や数々の文化財、大自然を満喫。子どもたちは最終日に「ひめゆり平和祈念資料館」を訪れ、沖縄戦の実態を目の当たりにし、戦争の悲惨さと平和の尊さを深く胸にとどめました。